

沖縄修学旅行～学んだことを、未来へ～

戦後77年、沖縄本土復帰から50年の年に

2年生は10月10日から3泊4日の日程で、沖縄へ修学旅行に行ってきました。7月には沖縄国際大学の先生から、「戦争体験に何を学ぶか」という講義をオンラインで受講、地元の戦跡として長野市松代の象山地下壕を見学して沖縄と長野県との関係を学びました。8月のポプラ祭では沖縄に係る企画を行うなどの事前学習をして旅行本番に臨みました。沖縄平和祈念公園・平和の礎で平和セレモニーを行い、糸数アブラチガマの入壕体験学習をしました。嘉手納基地では現在の基地問題を目の当たりにして日本の直面する課題を考え平和とはなにかを学びました。また国際通りで買い物を楽しんだり美ら海水族館でジンベイサメの泳ぐ姿に驚いたりしました。さらに民泊体験では各ご家庭に暖かく迎えられるなど忘れられない思い出を作ることができました。



平和宣言

私たち長野県藜科高等学校2年生は、ここ沖縄で起きた悲惨な出来事を学んできました。多くの尊い命が奪われ、家族が友人が殺され、真っ暗なガマの中で恐怖のなかを生き延びた方々がどのような思いであったのか。また沖縄戦は時間を稼ぐための戦いであったという事実と、大本営を移そうとした先が、私たちの住む長野県の松代にあったということも。こんなにも遠い地でおきた戦争が、私たちの住んでいる長野県に関係していた事は驚きと戸惑いを隠せませんでした。



いまこのような美しく雄大な自然を誇る沖縄にきて、改めて平和の大切さを知り、戦争を二度と繰り返してはいけないと強く決意しました。

戦後77年を経ても、様々な問題が残され、いまだに苦しい思いをしている人がいる事実から目をそむけるわけにはいきません。私たちの使命は、後世に事実を伝え、二度と繰り返されることなく、世界平和を築くことです。私たち一人ひとりが、世界の平和を守る最善を尽くすことを誓い、戦争に加担せず、この世の中からすべての戦争がなくなることを祈念し、平和宣言といたします。

2022年10月10日

長野県藜科高等学校 2学年一同



実際に沖縄へ行くまでは平和の礎や平和祈念資料館などイメージは湧きませんでした。実際に現地に行ってみると生々しく戦時の状況が伝わってくるような展示がたくさんあり、戦争の怖ろしさを改めて感じました。



ガマに入ったたり平和祈念資料館で写真や資料などを見て、沖縄戦で起こったことがよくわかりました。系数壕では当時の人が暗い場所でおびえてたのが想像でき、おそろしいと思いました。
基地見学では、基地が各地にあって広くて、米軍機が何回も飛んでいてすごい音だと思いました。

民泊をして三線を弾かせてもらい、とても難しかったです。教えてもらい少し弾けるようになりました。落ちついた音色がきれいで、もっと弾けるようになりたいと思いました。戦時中、4人に1人が命を落とし、最後の一人まで戦った。戦争の残酷さと命の大切さを感じました。



民泊をしてとても優しく接してくれました。沖縄料理のこと、三線のこと、戦争のこと、家族のように接してくれて、いろいろ教えてくれました。またいつの日か今回訪ねたところを旅行してみたいと思いました。



笑顔で家族のように接してくれて沖縄の方は優しかったです。民泊ではお手伝いも少しでき楽しかったです。戦争と平和について学び次世代に伝えていくことが大切だと思いました。



多くの皆さんに関わっていただき貴重な経験ができた修学旅行でした。平和の尊さ、笑顔や優しさ、感謝の気持ち。学んだことをこれからの生活に活かしたいと思いました。